（別添３）

【鹿児島県】

校務ＤＸ計画

１　現状

校務支援システムについては，県内各市町村によって，異なるシステムを利用しており，データの保管場所が各市町村や学校のサーバーにあることで，データの共有等を図ることが難しい状況にある。

また，「ＧＩＧＡスクール構想の下での校務ＤＸ化チェックリスト」による自己点検の結果等によると，教職員と保護者間の連絡において，完全にデジタル化していることや押印の原則禁止などに課題がある。

２　改善施策

⑴　業務のＤＸ化

ＦＡＸでのやり取り，押印の使用，校務支援システムへの名簿情報等の不必要な手入力作業などは，校務の効率化，ペーパーレス化の大きな阻害要因となっている。これらについては，今の環境を改善することでできる校務ＤＸの推進として，各市町村教育委員会等に改善を促す。

さらに，業務の量に関しても，重複する文書回覧や調査依頼，照会等を削減するよう組織的な取組を促す。

⑵　ペーパーレス化の推進

これまで行っていたアンケート等の調査物について，情報共有システムを活用して会議資料等を共有し，印刷，製本などの業務を軽減する。

⑶　クラウドシステムの活用（Google Workspace，Microsoft 365 など）

県内の児童生徒，教職員は，Microsoft，Google それぞれ１人１アカウントを所持している。このことから，データのやり取り，個別の学習履歴や各種の教育データの利活用などについて，県主導で教育におけるＤＸ化を図る。

⑷　教職員のＩＣＴ活用スキル

教育ＤＸの推進にあたって，教職員のＩＣＴスキルや教育ＤＸに対する柔軟な意識転換が必要である。そのため，関連する研修等を整え，実施する。

３　環境整備

⑴　次世代型校務支援システムの共同調達

県内各市町村によって異なる校務システムを統合することで，各市町村間でのデータの共有，異動した教職員の負担軽減等を図る。汎用型クラウドを活用したシステムの導入によって，成績管理や出欠管理のオンライン化を進めたり，学習データの収集，分析による教育支援，授業準備への活用推進を図る。

⑵　セキュリティ対策

次世代型校務支援システムをクラウドベースのシステムで構築し，教職員の多様な働き方にも対応できるようにする。学校等にいない場合においても，オンラインを活用して校務支援システムにアクセスし，業務を遂行できるようにする。

⑶　情報共有のためのコミュニケーションツール活用

教職員のＩＣＴスキルの向上や生成ＡＩなどの最先端技術によって，どのように業務の効率化を図るかなど，相互の情報交換や事例紹介をする場として，オンラインコミュニケーションツールを整備する。

４　環境導入計画

⑴　段階的導入の計画

現在，県内の教職員が利用している校務支援システムは，各市町村によってシステム導入時期や更新時期が異なる。各市町村の更新に合わせて，円滑に次世代校務ＤＸ環境へと移行できるよう，校務系ネットワークやシステム等の現状分析，望ましい校務の在り方に関する検討を実施しながら，各市町村の更新時期に合わせて順次更新できるようロードマップを設定する。

⑵　定期的な更新

環境の運用に当たっては，ＰＤＣＡサイクルを確立し，持続的な改善策が講じられるようにする。次世代校務ＤＸ環境を運用しながら，教職員や児童・生徒，保護者などからフィードバックの収集などを行い，その都度，改善が図られるよう運用規定等を定める。

⑶　県教育委員会内の部署や組織との連携

教育ＤＸの推進をはじめ，次世代校務ＤＸ環境整備の推進については，教育委員会内の担当部署間の連携を図る。従来業務の見直しや各種規定の見直し，関連業務との調整，財務会計システムや勤務処理システムなどへの影響等，部署や組織を超えた体制整備を進める。